需給動向

海外の畜産物の需給動向

牛　肉

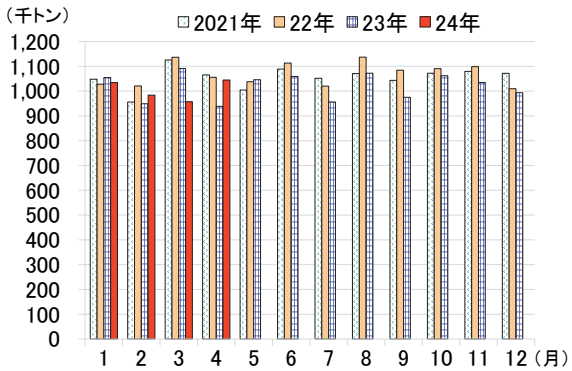
米　国

24年第１四半期の牛肉輸出量は前年同期比5.9%減

24年４月の牛肉生産量は前年同月比11.3%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2024年４月の牛と畜頭数は268万1000頭（前年同月比7.5％増）とかなりの程度増加した。同月の１頭当たり枝肉重量は、前月までのと畜ペースの遅れに伴う肥育期間の長期化により、384.6キログラム(同3.7%増)とやや増加した。この結果、同月の牛肉生産量は104万5000トン（同11.3%増）とかなり大きく増加した（図１）。24年の牛肉生産量についてUSDAは、今後第３四半期（７～９月）にかけても枝肉重量の増加が見込まれることで、前月予測から６万4000トン上方修正した1206万3000トン（前年同期比1.4%減）と見込んでいる。

図１　牛肉生産量の推移



資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」
注：枝肉重量ベース。

また、４月のフィードロット導入頭数は165万6000頭（前年同月比5.8%減）とやや減少し、出荷頭数は187万2000頭（同10.1%増）とかなりの程度増加した。この結果、５月１日時点のフィードロット飼養頭数は1155万4000頭（前年同日比0.9%減）とわずかに減少した。

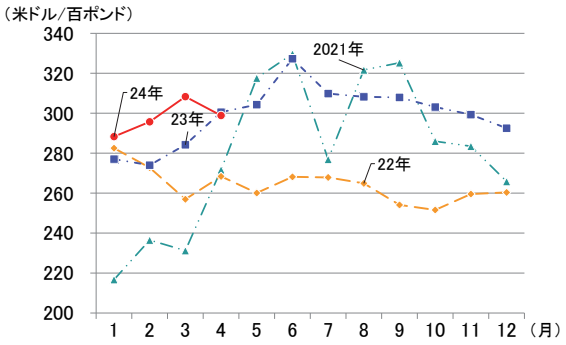
24年４月の肥育牛価格、前年同月比4.2%高

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年４月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー）は100ポンド当たり298.86米ドル（１キログラム当たり1039円：１米ドル＝157.74円(注)、前年同月比0.6%安）と下落し、15カ月ぶりに前年同月を下回った（図２）。

また、同月の肥育牛価格は、肥育牛の供給増や卸売価格の下落により食肉処理加工業者（パッカー）の利益が圧縮されたことから、同185.77米ドル（同646円、同4.2％高）となり、前月から0.6%下落した（図３）。

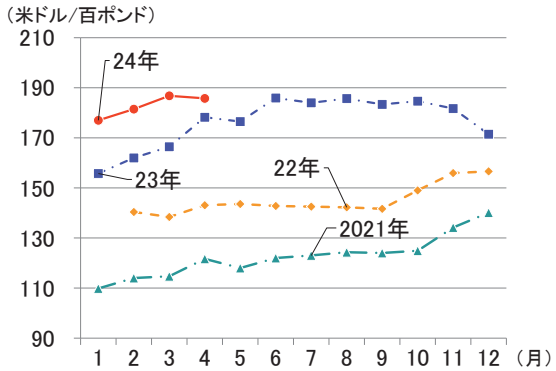
（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年５月末TTS相場。

図２　牛肉卸売価格の推移



資料：USDA「Livestock ＆ Meat Domestic Data」
注１：カットアウトバリュー（各部分肉の卸売価格を１頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格）。
注２：チョイス級、600～900ポンド。

図３　肥育牛価格の推移



資料：USDA「Livestock ＆ Meat Domestic Data」
注１：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。
注２：2022年１月の値は、N/A値。

24年１～３月の牛肉輸出量は前年同期比5.9%減、輸出額では同5.8%増

USDA/ERSによると、2024年３月の牛肉輸出量は11万6169トン（前年同月比10.4%減）とかなりの程度減少し、同年第１四半期（１～３月）累計では33万2394トン（前年同期比5.9%減）とやや減少した（表）。

一方、米国農務省海外農業局（USDA/FAS）によると、第１四半期の累計輸出額は21億4647万米ドル（3385億8418万円、同5.8%増）とやや増加した。輸出量が減少している中で、国内の供給減と堅調な需要による価格高が全体の輸出額を押し上げている。

輸出先別に見ると、日本向けが輸出量が７万5409トン（同10.8%減）とかなりの程度減少し、輸出額でも同6.7%減と減少した。韓国向けは輸出量が７万2578トン（同8.8%減）となった一方、輸出額では同10.2%増とかなりの程度増加した。また、メキシコ向けは輸出量が３万9302トン（同11.7%増）とかなり大きく増加し、輸出額でも同21.2%増と大幅に増加した。

表　輸出先別牛肉輸出量の推移

区分	2023年１～３月		24年１～３月		前年同期比	
	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	輸出量	輸出額
日本	84,537	374,823	75,409	349,889	▲ 10.8%	▲ 6.7%
韓国	79,568	485,941	72,578	535,585	▲ 8.8%	10.2%
中国	56,469	357,938	52,288	351,751	▲ 7.4%	▲ 1.7%
メキシコ	35,183	209,805	39,302	254,286	11.7%	21.2%
カナダ	26,101	119,771	25,403	138,315	▲ 2.7%	15.5%
台湾	20,671	140,952	17,104	132,574	▲ 17.3%	▲ 5.9%
香港	8,322	68,430	9,458	89,657	13.6%	31.0%
その他	42,536	270,511	40,852	294,409	▲ 4.0%	8.8%
合計	353,386	2,028,171	332,394	2,146,466	▲ 5.9%	5.8%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」、USDA/FAS「Global Agricultural Trade System Online」
注：輸出量は枝肉重量ベース。

（調査情報部　伊藤　瑞基）

豪　州

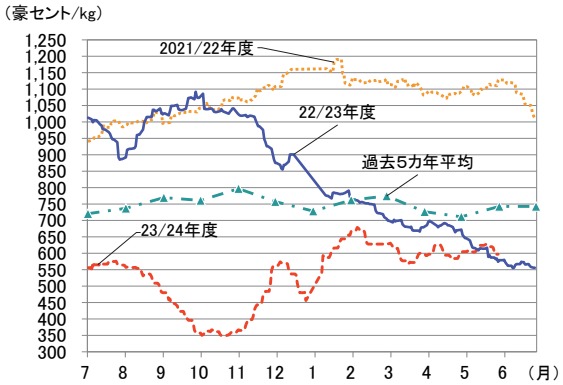
24年第１四半期の牛肉生産量はわずかに減少

24年５月の肉牛価格、過去５カ年平均の約２割安の水準で推移

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、直近の2024年５月31日で１キログラム当たり597豪セント（633円：１豪ドル＝106.01円(注)）となった（図１）。同価格は、過去５カ年平均の約２割安の水準にあり、５月に入り小幅な値動きで推移している。現地報道によると、牛の家畜市場への出荷頭数は増加傾向とされるが、後述するように今後一定の降雨による牧草確保の可能性を考慮した一部の牧草肥育農家の需要増などにより、EYCI価格は比較的安定して推移している。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年５月末TTS相場。

図１　EYCI価格の推移

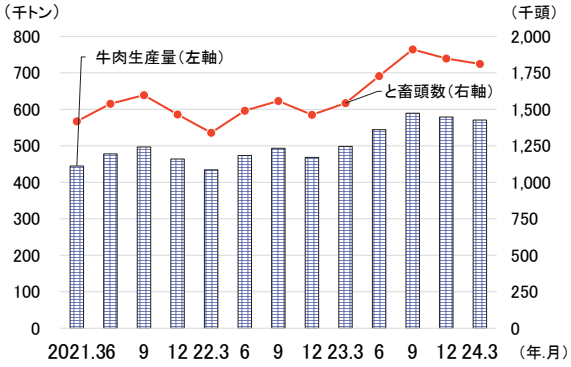


資料：MLA「National Livestock Reporting Service」
注１：年度は７月～翌６月。
注２：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部３州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

成牛と畜頭数および牛肉生産量はわずかに減少

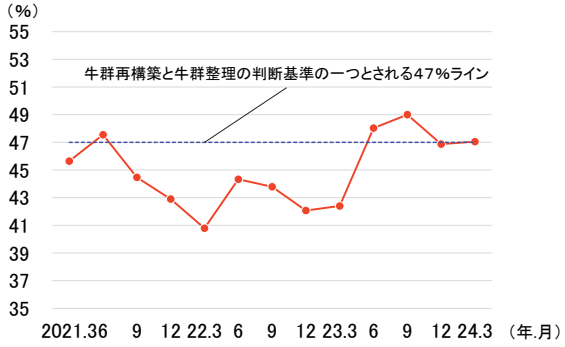
豪州統計局（ABS）が2024年５月に公表した統計によると、24年第１四半期（１～３月）の牛のと畜頭数は181万頭（前期比2.0%減）、牛肉生産量は57万700トン（同1.4%減）といずれもわずかに減少した（図２）。他方で雌牛と畜割合（FSR）は、牛群の再構築と整理の判断基準の一つとされる47%を維持している（図３）。肉用牛繁殖農家は、今後の気象予報に注視しつつ、雌牛の

図２　牛肉生産量およびと畜頭数の推移



資料：ABS
注１：四半期ごとの数値。
注２：生産量は枝肉重量ベース、と畜頭数は子牛を除く。

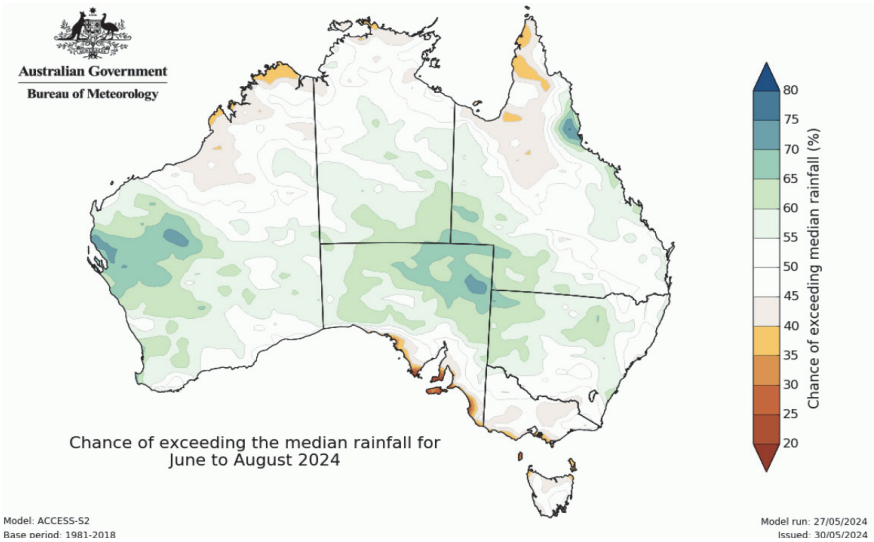
図３　雌牛と畜割合（FSR）の推移



資料：ABS
注：四半期ごとの数値。

保留または出荷の判断を留保しているとみられる。このような中で豪州気象局(BOM)は、24年６月から８月の降雨予想図を公表し、豪州の広範な地域で、平年か平年以上の降雨を予想している（図４）。また、BOMでは、24年後半には国内各地に雨をもたらすラニーニャ現象が再び発生する可能性があることを示唆している。

図４　2024年６～８月の豪州における降雨予想図



資料：BOMウェブサイトから引用

24年４月の牛肉輸出量、北米向けを中心に前年同月比46.2%増

豪州農林水産省（DAFF）によると、2024年４月の牛肉輸出量は、10万5367トン（前年同月比46.2%増）と大幅に増加した（表）。

表　輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2023年 ４月	24年 ４月	前年同月比 （増減率）	24年 （１～４月）	前年同期比 （増減率）
米国	12,547	27,257	117.2% （約2.2倍）	95,390	88.9%
日本	15,225	21,731	42.7%	82,864	28.9%
韓国	13,586	15,785	16.2%	56,281	▲ 1.2%
中国	16,745	14,888	▲ 11.1%	61,229	2.4%
東南アジア	7,187	13,095	82.2%	41,602	25.8%
中東	1,710	3,613	111.3% （約2.1倍）	11,737	52.1%
カナダ	477	2,370	397.4% （約5.0倍）	8,917	216.2% （約3.2倍）
EU	508	1,285	153.0% （約2.5倍）	4,154	104.4% （約2.0倍）
その他	4,080	5,343	30.9%	19,185	22.4%
輸出量合計	72,063	105,367	46.2%	381,359	30.2%

資料：DAFF
注１：船積重量ベース。
注２：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。
注３：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ））。

輸出先別に見ると、引き続き米国向けが最も多く、２万7257トン（同117.2％増（約2.2倍））と大幅に増加した。次いで日本向けは２万1731トン（同42.7％増）と同じく大幅に増加しており、米国からの供給減が豪州産牛肉の日本への堅調な輸出を下支えしている。また、カナダ向けは米国同様、干ばつの影響により同国の牛肉生産量が減少していることから、2370トン（同397.4％増（約5.0倍））と大幅に増加している。

一方、中国向けは、景気後退による需要の落ち込みから１万4888トン（同11.1％減）となり、主要輸出先の中で唯一減少した。しかし、５月30日付けの現地報道によると、過去数年間にわたり中国が豪州の食肉加工施設に課していた輸入停止措置が解除（７カ所中５カ所）されたとしており、６月以降の中国向け牛肉輸出量の動向が注目される。

（調査情報部　国際調査グループ）

中　国

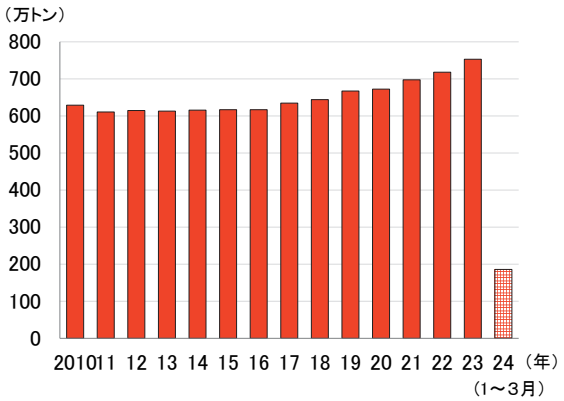
牛肉生産量は増加、輸入量も引き続き増加傾向で推移

24年第１四半期の牛肉生産量は前年同期比3.3％増

中国国家統計局によると、2023年の牛肉生産量は、飼養頭数の増加などから前年比4.8％増の753万トンとなった（図１）。また、24年第１四半期（１～３月）の牛肉生産量は、前年同期比3.3％増の186万トンとなった。

24年の牛肉生産量について中国農業農村部は、同年４月に公表した「中国農業展望報告（2024―33）」（以下「展望報告」という）の中で、品種改良が着実に進み、飼養技術も向上していることなどから、761万トン（前年比1.1％増）と見込んでいる。

図１　牛肉生産量の推移



資料：中国国家統計局

24年５月の牛肉価格は前年同月比14.1％安

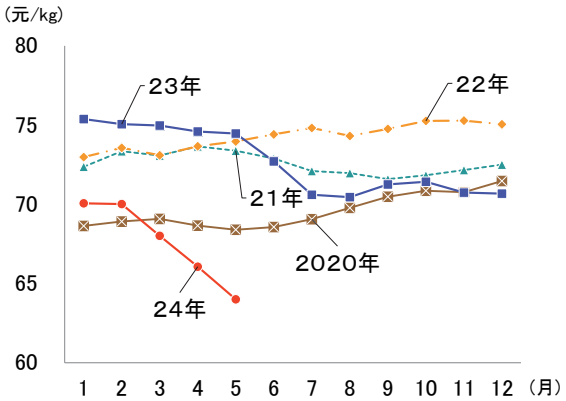
牛肉の卸売価格は、牛肉生産量の増加や価格優位性のある輸入牛肉の輸入量増加などを背景に2023年は下落基調で推移した。24年もこの傾向が続いており、中国商務部によると、５月の牛肉卸売価格は１キログラム当たり64.0元（1402円：１元＝21.91円(注)、前年同月比14.1％安）と、20年を下回る水準になった（図２）。

今後の牛肉価格について展望報告では、引き続き牛肉の輸入量が増加することに加え、生乳価格の下落により乳用牛の淘汰（とうた）が進むことで牛肉生産量が増加することなどから、当面下落するとしている。他方で、牛の生産コストは依然として高いため、牛肉価格の下落に伴って乳用牛の淘汰が抑制されることから、下落幅はそれほど大きくならないと

見込んでいる。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年５月末TTS相場。

図２　牛肉卸売価格の推移



資料：中国商務部

24年１～４月の牛肉輸入量、冷蔵・冷凍共に大幅増

中国の牛肉輸入量は、牛肉生産量が増加基調にある一方、高まる需要を背景に増加傾向で推移してきた。2023年の牛肉輸入実績を見ると、輸入の大部分を占める冷凍牛肉は267万1945トン（前年比1.3％増）とわずかに増加した（表１）。また、冷蔵牛肉の輸入量は６万5421トン（同25.5％増）と大幅に増加した（表２）。24年１～４月も増加傾向は続いており、冷凍牛肉は前年同期比21.3％増、冷蔵牛肉は51.6％増といずれも大幅に増加した。

表１　冷凍牛肉の輸入先別輸入量の推移

（単位：千トン）

	2020年	21年	22年	23年	前年比（増減率）	24年（１～４月）	前年同期比（増減率）
ブラジル	848.4	858.5	1,105.2	1,177.1	6.5%	421.6	26.5%
アルゼンチン	481.1	461.7	488.2	524.9	7.5%	201.8	25.1%
ウルグアイ	228.3	352.9	356.1	274.1	▲23.0%	104.9	12.6%
ニュージーランド	160.9	191.7	206.2	196.9	▲4.5%	66.4	▲8.2%
豪州	220.0	138.6	159.3	191.7	20.3%	68.3	26.4%
米国	24.6	130.7	162.0	137.9	▲14.9%	38.9	▲11.6%
その他	106.2	145.2	160.9	169.4	5.3%	67.1	65.8%
合計	2,069.6	2,279.3	2,637.8	2,671.9	1.3%	969.0	21.3%

資料：「Global Trade Atlas」
注１：製品重量ベース。
注２：HSコード0202。

表２　冷蔵牛肉の輸入先別輸入量の推移

（単位：千トン）

	2020年	21年	22年	23年	前年比（増減率）	24年（１～４月）	前年同期比（増減率）
豪州	33.4	24.2	23.2	34.6	49.1%	15.6	99.8%
米国	3.5	13.2	16.4	18.2	11.2%	6.6	4.4%
ニュージーランド	8.9	10.1	9.7	9.1	▲5.8%	3.2	15.8%
アルゼンチン	1.5	3.5	2.3	2.1	▲9.8%	0.7	50.1%
ロシア	0.01	0.2	0.4	0.8	70.0%	0.2	13.0%
ウルグアイ	1.3	2.3	0.1	0.5	360.9%	0.2	293.8%
その他	0.1	0.01	0.003	0.120	4305.6%	0.14	－
合計	48.7	53.6	52.1	65.4	25.5%	26.7	51.6%

資料：「Global Trade Atlas」
注１：製品重量ベース。
注２：HSコード0201。

牛肉の輸入量について展望報告では、輸入牛肉は依然として価格優位性があることなどから24年も引き続き増加（前年比1.8％増）と見込んでいる。一方で、米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は４月、中国国内で輸入牛肉の在庫が積み上がっていることに加え、と畜頭数の増加により牛肉生産量が増加（同２％増）することから、輸入量は減少（同４％減）するとのレポートを公表している。

（調査情報部　平山　宗幸）

豚　肉

ＥＵ

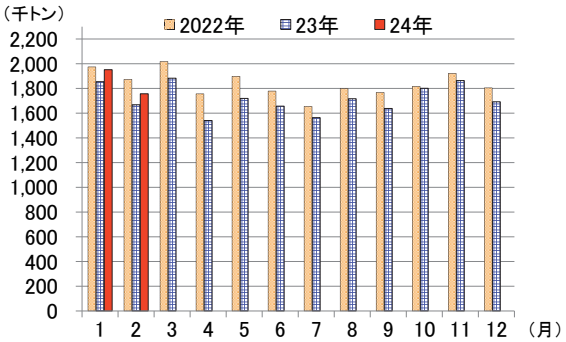
主要生産国の豚肉生産量、前年同月を上回る

24年２月の豚肉生産量、前年同月比5.3％増

欧州委員会によると、2024年２月の豚肉生産量（EU27カ国）は、175万7000トン（前年同月比5.3％増）とやや増加した（図１）。EUの豚肉生産量は22年６月から23年12月まで19カ月連続で前年同月を下回っていたが、24年に入り２カ月連続で前年同月を上回った。同月のと畜頭数が1824万頭（同3.8％増）とやや増加したことが豚肉生産量増の要因となった。

欧州委員会が24年５月３日に公表した短期的見通しによると、23年12月時点の母豚や子豚の飼養頭数が前年同月比増となったことで、豚肉生産に回復の兆候がみられるとされる。米国農務省海外農業局（USDA/FAS）の分析によると、母豚などの増加に加えて飼料価格の下落により養豚生産者の収益性が改善されることから、飼養頭数が増加すると見込まれ、24年の豚肉生産量は2.1％増加すると予測されている。

図１　豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：直近月は速報値。
注２：枝肉重量ベース。

24年１～２月の豚肉生産量を主要生産国別に見ると、デンマークを除き前年同期比増となった（表１）。中でも、ASFの発生から回復基調にあるポーランド（前年同期比13.7％増）はかなり大きく増加した。また、現地報道によると、減少傾向で推移していたドイツの豚肉生産量は安定に転じてきた可能性が示唆されている。さらに、主要生産国の中で唯一、減少となったデンマークも、24年４月１日時点の豚飼養頭数が約３年ぶりに前年同月を上回った（前年同月比6.8％増）ことで、24年の豚肉生産量は前年をわずかに上回ると見込まれている。

表１　主要生産国別豚肉生産量

（単位：千トン）

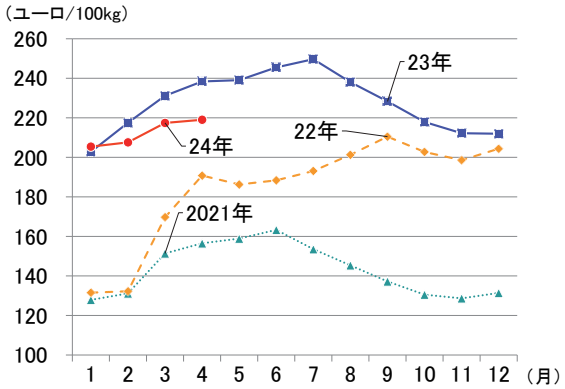
	2023年２月	24年２月	前年同月比（増減率）	24年（１～２月）	前年同期比（増減率）
スペイン	418	433	3.8%	935	5.5%
ドイツ	321	344	7.1%	722	5.9%
フランス	164	173	5.5%	365	5.8%
ポーランド	139	151	9.0%	319	13.7%
オランダ	119	125	5.7%	263	2.6%
デンマーク	112	117	5.1%	242	▲ 0.9%
イタリア	98	99	0.6%	210	0.5%
その他	298	314	5.4%	654	5.4%
合計	1,668	1,757	5.3%	3,709	5.3%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注：枝肉重量ベース。

24年４月の豚枝肉卸売価格、前年同月比8.1％安

欧州委員会によると、2024年４月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、前年同月比8.1％安の100キログラム当たり219.03ユーロ（３万7515円：１ユーロ＝171.28円(注1)）となった（図２）。前月からほぼ横ばいとなったが、北欧では冷涼な気候が続き、屋外調理需要の伸び悩みなどが前年を下回った要因とみられる。一方、韓国やフィリピン向けなど輸出が回復する中で、供給量は引き続き少ないことから、同価格は比較的高値で推移している。週別の価格動向を見ると、５月も横ばい傾向で推移しており、直近５月20日の週は前週から0.81ユーロ（139円）高の同220.68ユーロ（３万7798円）となった。

図２　豚枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」
注：EU（CLASS E）平均価格。

（注１）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年５月末TTS相場。

24年３月の豚肉輸出量、大幅減もアジア向けは一部回復

欧州委員会によると、2024年３月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、域内生産量の減少による価格の上昇からEU産豚肉の価格競争力が低下したことで、16万9573トン（前年同月比20.3％減）と大幅に減少した（表２）。24年第１四半期（１～３月）の豚肉輸出量は、豚肉需要が高まる韓国(注2)やフィリピン向けを中心に前年同期を上回ったが、その他の主要輸出先への輸出が減少したことにより、全体では、前年同期から大幅に減少した。

前述の短期的見通しによると、EUの豚肉

価格が高止まりで推移した場合、24年の輸出量は前年比４％減少の可能性があると予測されている。

（注２）海外情報「韓国、最大の豚肉輸入先国は米国に（韓国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003812.html）をご参照ください。

表２　輸出先別豚肉輸出量（EU域外向け）

（単位：トン）

	2023年３月	24年３月	前年同月比（増減率）	輸出割合	24年（１～３月）	前年同期比（増減率）
中国	62,230	35,186	▲ 43.5%	20.7%	115,424	▲ 38.6%
英国	30,480	27,955	▲ 8.3%	16.5%	79,631	▲ 2.6%
日本	33,706	27,145	▲ 19.5%	16.0%	83,006	▲ 14.7%
韓国	19,945	20,118	0.9%	11.9%	61,532	10.1%
フィリピン	10,975	10,692	▲ 2.6%	6.3%	31,700	11.6%
豪州	6,691	5,982	▲ 10.6%	3.5%	16,195	▲ 28.3%
その他	48,662	42,495	▲ 12.7%	25.1%	126,310	▲ 11.0%
合計	212,689	169,573	▲ 20.3%	100.0%	513,798	▲ 16.6%

資料：「Global Trade Atlas」
注１：製品重量ベース。
注２：HSコードは0203。

（調査情報部　藤岡　洋太）

チ　リ

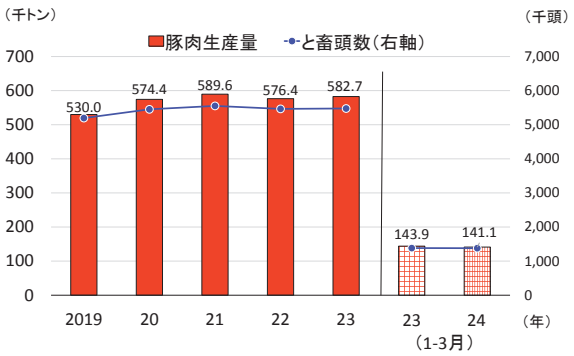
24年１～３月の豚肉生産量は前年同月比で1.9％減、輸出量は同14.1％減

24年１～３月の豚肉生産量は前年同期比1.9％減

チリ農業省農業政策・調査局（ODEPA）によると、2024年１～３月の豚肉生産量は、14万1140トン（前年同期比1.9％減）と前年同期をわずかに下回った（図１）。また、と畜頭数は、138万頭（同0.2％減）と前年同期並みとなった。

23年の豚肉生産量は、58万2652トン（前年比1.1％増）と前年をわずかに上回った。同国の養豚は、飼料の多くを輸入に依存していることから、その価格動向が豚肉生産に影響している。22年は穀物飼料価格が高く、米ドルに対するチリペソ安を背景に生産減となったが、23年は穀物飼料価格が低下するとともに、米ドルに対するチリペソ安が落ち着いたことから豚肉生産量の回復につながったとみられる。

図１　豚肉生産量、豚と畜頭数の推移



資料：ODEPA
注：枝肉重量ベース。

24年１～３月の豚肉輸出量は中国向けの減少により前年同期比14.1％減

2024年１～３月の豚肉輸出量は、４万9243トン（前年同期比14.1％減）と前年同期をかなり大きく下回った(図２)。これは、最大の輸出相手先である中国向けが、１万8545トン（同33.8％減）と大幅に減少したためである。この結果、輸出量全体に占める中国向け比率は、前年同期から11.1ポイント以上低下して37.7％となった。中国に次ぐ輸出先である韓国向けは9395トン（同15.6％増）、日本向けは9242トン（同1.8％増）となっており、主要３カ国合計の輸出比率は75.5％となった。

23年の豚肉輸出量は、20万2599トン（前年比14.5％増）と前年をかなり大きく上回った。これは、中国向けが、８万2741トン（同10.6％増）と22年の大幅な落ち込み（21年比４割減）から回復に転じたほか、これに次ぐ日本向けが大幅に増加（同28.4％増）したためである。これに加え、コスタリカやペルーなどの中南米向け、オランダ、フィリピン向けが大幅に増加した。チリでは23年２月21日、「環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（CPTPP）」が発効し、同国は10カ国目の協定締結国となった。チリ養豚協会（ASPROCER）は、CPTPPにより日本市場におけるチリ産豚肉の拡大につながったとしている。

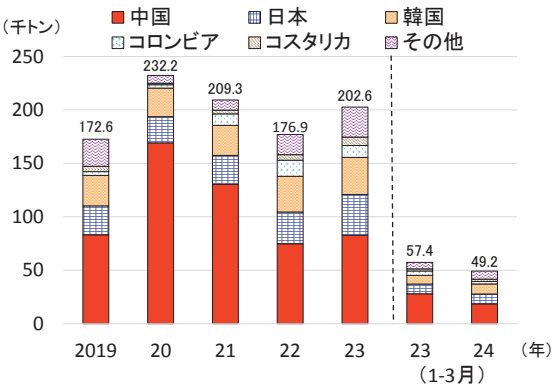
24年４月の肉豚生産者販売価格は前年同月をやや下回って推移

2024年４月の肉豚生産者販売価格は、前年同月比4.8％安の１キログラム当たり0.80米ドル（126円：１米ドル＝157.74円(注)）と前年同月をやや下回った（図３）。肉豚生産者販売価格は、23年12月～24年３月の間に半値以下（55.1％安）に急落した。これは、中国向けを中心に海外需要が低迷したことなどが影響したとみられる。

近年の肉豚生産者販売価格の動向については、22年に国内経済の減速による豚肉需要の低迷や中国向け豚肉輸出の大幅な減少により大幅に下落したが、23年は海外需要の回復に伴い前年の価格を４割程度上回った。

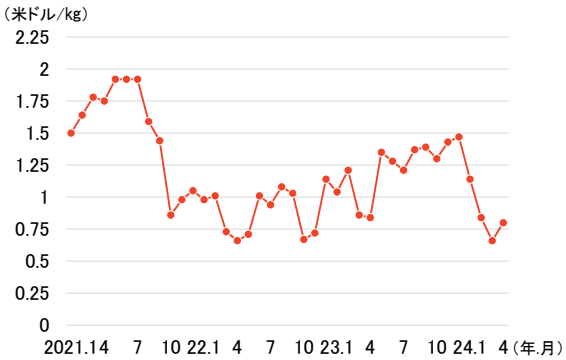
（注）三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」５月末ＴＴＳ相場。

図２　豚肉輸出量の推移



資料：ODEPA
注１：HSコード0203
注２：製品重量ベース。

図３　肉豚生産者販売価格



資料：ODEPA

（調査情報部　井田　俊二）

鶏　肉

米　国

24年の１～４月の鶏肉生産量は前年比1.7%増、価格は高値で推移

24年１～４月の鶏肉生産量は、前年比1.7%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年の１～４月の鶏肉生産量は、処理羽数の増加（前年同期比1.3%増）から696万1000トン（同1.7%増）とわずかに増加した（表１）。また、24年４月の鶏肉生産量は、前年に比べて操業日数が２日多かったことで、前年同月比10.4%の増加となった。

24年の鶏肉生産量についてUSDA/ERSは、米国内での堅調な需要、孵化場における肉用鶏卵の導入数の増加、飼料価格の低下などにより、2123万トン（前年比0.9%増）とわずかな増加を予測している。

表１　鶏肉生産量の推移

	2023年（１～４月）	24年（１～４月）	前年比（増減率）	24年４月	前年同月比（増減率）
生産量（千トン）	6,847	6,961	1.7%	1,776	10.4%
処理羽数（百万羽）	3,075	3,116	1.3%	793	9.5%
生体重量（キログラム/羽）	2.95	2.96	0.2%	2.96	0.5%

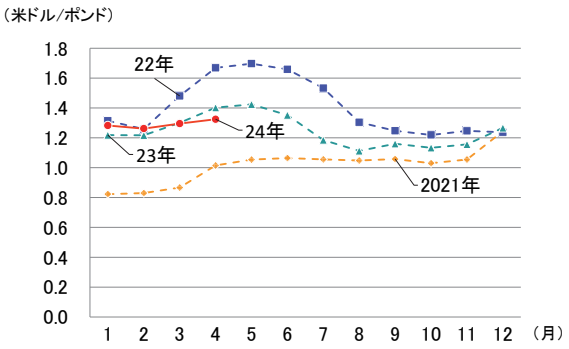
資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」
注１：連邦食肉検査済みのもの。
注２：生産量は可食処理ベース（骨付き）。

24年の第１四半期の卸売価格、前年同期比2.8%高

USDA/ERSによると、2024年の第１四半期（１～３月）の平均鶏肉卸売価格は１ポンド当たり1.28米ドル（１キログラム当たり445円：１米ドル=157.74円(注)、前年同期比2.8%高）とわずかに前年同期を上回った。また、24年４月の鶏肉卸売価格は同1.32米ドル（同459円、前年同月比5.5%減）とやや下回ったが、引き続き高い水準で推移している（図１）。

24年の卸売価格についてUSDA/ERSは、引き続き牛肉の供給ひっ迫により牛肉価格が高騰する中で、需要が鶏肉へシフトして堅調な需要が見込まれるとし、同平均1.27米ドル（同442円、前年比同2.1%高）と予測している。また、第２四半期は同1.32米ドル（同459円）となり、第３四半期および第４四半期は同1.24米ドル（同431円）に下落するとしている。

図１　鶏肉の卸売価格の推移

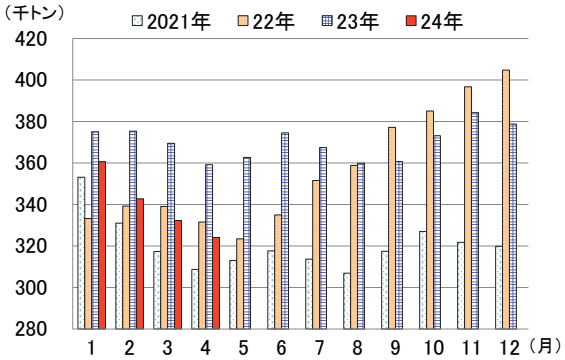


資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」

鶏肉卸売価格が高い水準にある中で、4月末の鶏肉冷凍在庫量は32万4089トン（同9.8%減）とかなりの程度減少した（図2）。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年5月末TTS相場。

図2　鶏肉冷凍在庫量の推移



資料：USDA「Cold Storage」
注：各月末在庫。

24年の第1四半期の鶏肉輸出量、前年同期比8.5%減

USDA/ERSによると、2024年の第1四半期の鶏肉輸出量は77万7453トン（前年同期比8.5%減）とかなりの程度減少した（表2）。米ドル高で推移する為替相場や、ブラジル産鶏肉の価格競争力が高いことが輸出量の減少要因とされている。

輸出先別に見ると、最大の輸出先であるメキシコ向けは17万9323トン（同2.8%減）とわずかに減少し、台湾向けについても、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）発生後に台湾の鶏肉生産が回復したことにより5万9830トン（同10.3%減）とかなりの程度減少した。一方、キューバ向けは7万2985トン（同3.7%増）とやや増加し、アフリカ豚熱（ASF）の発生拡大で鶏肉需要が拡大しているフィリピン向けは3万5835トン（同29.6%増）、観光需要などが回復しているアラブ首長国連邦向けは2万9989トン（同63.2%増）とそれぞれ大幅に増加した。

今後も世界的な鶏肉の需要量の増加から、各消費地域における輸入量の伸びが見込まれているが、USDAは、堅調な国内需要を背景に価格が高く、米ドル高で推移している為替相場により、ブラジルと比較して米国産鶏肉の価格競争力が低下しているとしている。このため、24年の鶏肉輸出量は312万5000トン（前年比5.2%減）と予測している。

表2　輸出先別鶏肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2023年3月	24年3月	前年同月比（増減率）	シェア	24年（1～3月）	前年同期比（増減率）
メキシコ	61,583	55,012	▲10.7%	21.7%	179,323	▲2.8%
キューバ	18,225	26,326	44.4%	10.4%	72,985	3.7%
フィリピン	12,947	13,341	3.0%	5.3%	35,835	29.6%
台湾	28,362	12,481	▲56.0%	4.9%	59,830	▲10.3%
ベトナム	9,903	11,245	13.6%	4.4%	25,618	2.8%
グアテマラ	11,708	11,157	▲4.7%	4.4%	35,552	0.2%
カナダ	12,031	10,994	▲8.6%	4.3%	31,583	▲5.4%
ジョージア	4,505	9,259	105.5%	3.7%	22,417	50.4%
アラブ首長国連邦	6,328	8,633	36.4%	3.4%	29,989	63.2%
アンゴラ	7,737	7,959	2.9%	3.1%	23,933	▲15.9%
その他	113,819	86,907	▲23.6%	34.3%	260,389	▲24.4%
合計	287,146	253,313	▲11.8%	100.0%	777,453	▲8.5%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注1：製品重量ベース。
注2：もみじ（鶏足）を除く。

（調査情報部　中島　勝紘）

ブラジル

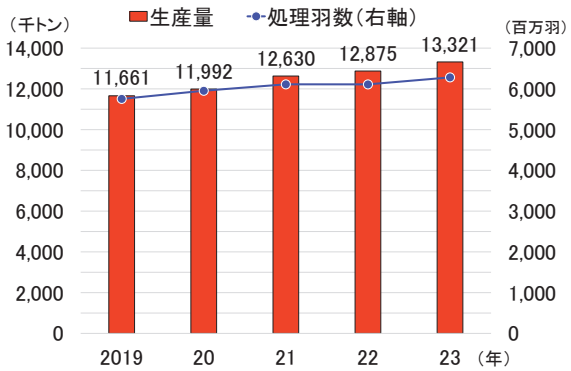
23年の鶏肉生産量は堅調な輸出需要を背景に過去最大を更新

23年の鶏肉生産量は前年比3.5％増、堅調な輸出需要などで５年連続増加

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2023年の鶏肉生産量は1332万1000トン（前年比3.5％増）と５年連続で増加し、IBGEが統計を取り始めた1997年以降最大となった(図１)。これは､堅調な輸出需要(同8.4％増）が後押ししていることに加え、23年当初からトウモロコシなど飼料価格が下落したことで、生産コストの低下による収益性の改善から生産者の増産意欲が強まったためである。また、同年の鶏処理羽数は、62億8218万羽（同2.8％増）となった。

24年の鶏肉生産量は、堅調な輸出需要、安定的な国内消費、生産コストの低下などから引き続き増加基調で推移するとみられている。

図１　鶏肉生産量および処理羽数の推移



資料：IBGE

24年１～４月の鶏肉輸出量、中国向けの減少から前年同期比2.8％減

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2024年１～４月の鶏肉輸出量は156万8271トン（前年同期比2.8％減）と前年同期をわずかに下回った(表)。

表　輸出先別鶏肉輸出量および輸出額

区分	2023年（１～４月）			24年（１～４月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	262,673	632,326	2,407	177,089	383,762	2,167	▲32.6%	▲39.3%	▲10.0%
アラブ首長国連邦	126,712	252,771	1,995	159,659	317,372	1,988	26.0%	25.6%	▲0.4%
日本	139,750	320,922	2,296	148,731	290,147	1,951	6.4%	▲9.6%	▲15.0%
サウジアラビア	119,367	275,645	2,309	139,908	292,364	2,090	17.2%	6.1%	▲9.5%
南アフリカ	133,909	86,880	649	106,018	54,899	518	▲20.8%	▲36.8%	▲20.2%
フィリピン	75,507	66,106	875	84,413	68,740	814	11.8%	4.0%	▲7.0%
イラク	55,924	110,286	1,972	63,183	135,552	2,145	13.0%	22.9%	8.8%
韓国	68,921	146,016	2,119	58,714	109,948	1,873	▲14.8%	▲24.7%	▲11.6%
その他	631,181	1,174,009	1,860	630,556	1,059,077	1,680	▲0.1%	▲9.8%	▲9.7%
合計	1,613,944	3,064,961	1,899	1,568,271	2,711,861	1,729	▲2.8%	▲11.5%	▲8.9%

資料：SECEX
注１：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。
注２：製品重量ベース。

輸出先別に見ると、最大の中国向けは17万7089トン（同32.6％減）と高水準となった23年の反動で前年同期を大幅に下回った。ただし、同国向け輸出については、中国政府が24年２月、ブラジル産鶏肉に課していた反ダンピング課税を解除したほか､同年３月、新たにブラジルの八つの鶏肉処理施設に対する輸出許可を決定したことなどから、今後、増加に転じるとみられる。一方、アラブ首長国連邦（同26.0％増）やサウジアラビア（同17.2％増）などのハラール市場向けは、前年同期を大幅に上回った。また、日本向けは14万8731トン（同6.4％増）と前年同期をかなりの程度上回った。

24年の鶏肉卸売価格は比較的安定して推移

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、直近（2024年５月23日時点）のブラジルの鶏肉卸売価格（サンパウロ州）は、１キログラム当たり7.29レアル（219円：１レアル＝30.09円(注)、前年同期比11.3％高）となった（図２）。24年に入り鶏肉卸売価格は、ほぼ同7.0～7.5レアル（211～226円）の範囲で安定的に推移している。

図２　サンパウロ州鶏肉卸売価格（丸鶏･冷蔵）の日毎の推移

資料：CEPEA
注：名目価格。

23年の鶏肉卸売価格は、国内での記録的な鶏肉生産による鶏肉需給の緩和に加え、牛肉や豚肉との価格差の縮小による鶏肉の価格競争力低下から４～７月にかけて急落し、同5.66レアル（170円）と高値時から３割程度下落した。その後は、鶏肉供給量の削減などにより需給が改善されたことで、価格は上昇に転じたが、年平均を比較すると高水準となった22年の価格から１割程度低下した。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年５月末のTTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

リオグランデドスル州で大規模な洪水が発生、同国の鶏肉需給に影響も

南部リオグランデドスル州では、2024年４月末から５月にかけて大雨に伴う大規模な洪水が発生し、同州の社会経済に大きな被害をもたらした。同州は鶏肉生産が盛んで、中部を中心に鶏舎などの浸水や道路の寸断による生産資材の輸送などに影響が生じた。このほか、鶏肉処理施設が浸水し、生鳥の搬入や鶏肉輸送への影響なども報告されている。被害規模などの詳細はまだ明らかになっていないが、同国の鶏肉価格は洪水発生後も比較的安定して推移しているとされている。同州はブラジル第４位の鶏肉生産州で、23年は国内鶏肉生産量全体の10.6％を占めている。

（調査情報部　井田　俊二）

牛乳・乳製品

米　国

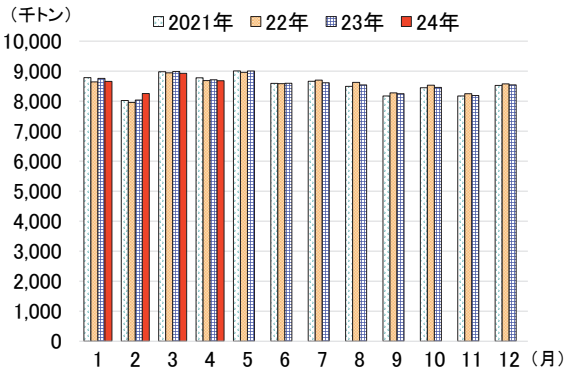
24年４月の生乳生産量は前年同月比0.4％減

24年４月の乳用経産牛飼養頭数はわずかに減少

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2024年４月の乳用経産牛飼養頭数は934万頭（前年同月比0.8％減）とわずかに減少した。また、同月の生乳生産量は、飼養頭数が減少する中で867万9000トン（同0.4％減）とわずかに減少した（図１）。主要生産州別に見ると、チーズの生産が盛んな中西部ウィスコンシン州では同2.5％増となった。一方、３月に乳牛のHPAI感染が報告(注1)されたテキサス州では、一頭当たり乳量の減少（同2.5％減）などにより同3.3％減となった。

USDAは、24年の生乳生産量について、飼料価格の下落により１頭当たり乳量の増加が見込まれることから、先月予測より46万3000トン上方修正の１億311万1000トン（前年比0.4％増）と予測している。

図１　生乳生産量の推移



資料：USDA「Milk Production」

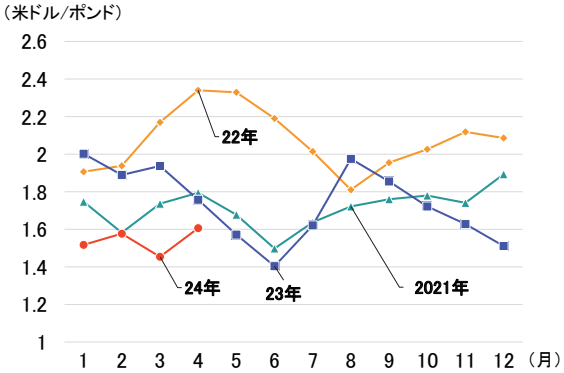
（注１）海外情報「乳牛でのHPAI感染エリアが拡大、当局は各種対策を実施（米国）（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003792.html）」をご参照ください。

24年４月のチーズ卸売価格は前年同月比8.6％安

米国農務省農業マーケティング局（USDA/AMS）によると、2024年４月のチーズ卸売価格は前年同月比8.6％安の１ポンド当たり1.61米ドル（１キログラム当たり559円：１ドル＝157.74円(注2)）となった（図２）。一方、バターの卸売価格は国内の堅調な需要から、同24.3％高の同2.94米ドル（同1023円）と大幅に上昇した（図３）。今後の動向についてUSDAは、夏季の需要増からチーズやバターの価格上昇が見込まれるとしている。

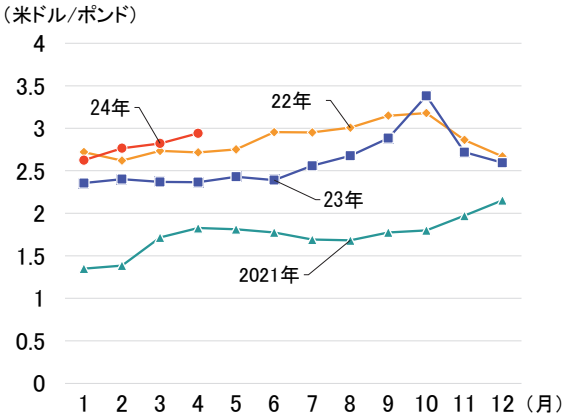
（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2024年５月末TTS相場。

図２　チーズの卸売価格



資料：USDA「DAIRY MARKET NEWS」
注：シカゴ・マーカンタイル取引所（CME）の現物価格（チェダーチーズ、40ポンドブロックのもの）。

図３　バターの卸売価格



資料：USDA「DAIRY MARKET NEWS」
注：シカゴ・マーカンタイル取引所（CME）の現物価格（グレードAA）。

24年３月の乳製品輸出量は全体的に減少も、チーズは大幅増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年３月の乳製品輸出量は乳脂肪分ベースで前年同月比0.8%減、無脂乳固形分ベースで同8.3%減となった。品目別に見ると、脱脂粉乳は国内生産の減少や、最大の輸出先であるメキシコからの需要減により、６万3700トン（前年同月比18.4%減）と大幅に減少した（表）。一方、チーズはメキシコや韓国、日本からの需要増により、５万トン（同20.5%増）と大幅に増加した。米国乳製品輸出協会（USDEC）によると、メキシコでは輸入脱脂粉乳を主にチーズの生産に用いるが、米国産チーズが比較的安価に輸入できることなどから、脱脂粉乳の輸入が減少しているとされる。そのほか、乳糖（同7.2%減）やホエイ（同22.3%減）は、米ドル高に伴う輸出競争力の低下などからいずれも減少した。

表　主要乳製品輸出量の推移

（単位：千トン）

	2023年３月	24年３月	前年同月比（増減率）	24年（１～３月）	前年同期比（増減率）
脱脂粉乳	78.0	63.7	▲18.4%	189.8	▲9.3%
チーズ	41.5	50.0	20.5%	131.7	21.5%
乳糖	37.0	34.3	▲7.2%	103.6	▲3.6%
ホエイ	21.3	16.5	▲22.3%	45.8	▲9.4%
WPC	14.7	13.7	▲6.4%	38.9	12.6%
バター	3.9	2.3	▲42.4%	6.8	▲36.4%

資料：USDA「Dairy Data」
注：製品重量ベース。

（調査情報部　小林　大祐）

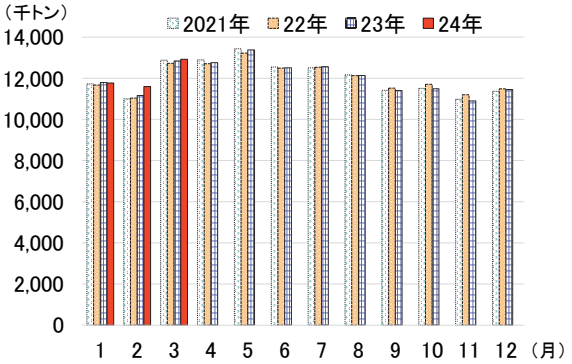
E U

24年４月の生乳取引価格、４カ月連続で前月並み

24年３月の生乳出荷量、前年同月比0.6％増

欧州委員会によると、2024年３月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1292万3000トン（前年同月比0.6％増）と前年同月をわずかに上回った（図１、表）。主要生産国別に見ると、オランダ（同1.4％減）およびアイルランド（同5.9％減）を除き前年同月を上回った。減少となったアイルランドは、天候不順や硝酸塩に関する規制(注１)の影響から13カ月連続で前年同月を下回ったが、前月に比べて減少率は縮小している。他方で、出荷量の増加が続くポーランド（同4.3％増）は、良好な天候が牧草の生育など放牧環境に寄与したことで、30カ月連続で前年同月を上回った。

図１　生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：直近月は速報値。
注２：データが未公表のルクセンブルグを除く。

（注１）アイルランドでは2024年１月から、一部地域を対象に硝酸塩指令による家畜排せつ物由来の窒素施用量の上限が従来の１ヘクタール当たり年間250キログラムから、同220キログラムに引き下げられた。

24年４月の生乳取引価格、12カ月連続で前年同月を下回る

欧州委員会によると、2024年４月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり46.31ユーロ（7932円：１ユーロ＝171.28円(注２)、前年同月比2.5％安）

表　主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：千トン）

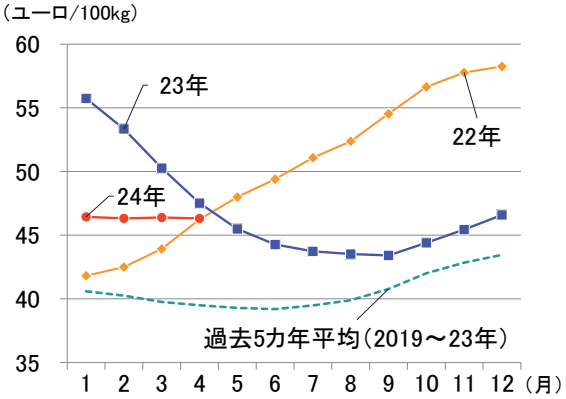
	2023年３月	24年３月	前年同月比（増減率）	24年（１～３月）	前年同期比（増減率）
ドイツ	2,840	2,845	0.2%	8,191	0.4%
フランス	2,125	2,149	1.1%	6,186	1.6%
オランダ	1,227	1,210	▲ 1.4%	3,510	▲ 1.1%
ポーランド	1,134	1,182	4.3%	3,400	4.7%
イタリア	1,146	1,164	1.5%	3,383	4.5%
アイルランド	825	776	▲ 5.9%	1,291	▲ 8.0%
スペイン	651	654	0.4%	1,890	2.3%
デンマーク	488	489	0.0%	1,416	0.2%
ベルギー	412	415	0.7%	1,197	1.8%
その他	1,993	2,039	2.3%	5,822	2.5%
合計	12,842	12,923	0.6%	36,287	1.4%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：直近月は速報値。
注２：データが未公表のルクセンブルグを除く。

と前年同月をわずかに下回った（図２）。しかし、直近の乳製品価格が比較的安定していることに連動し、前月比では0.2パーセント安にあり、４カ月連続で前月並みの水準を維持している。過去５年（19～23年）の平均生乳取引価格と比べると、24年に入り各月とも15パーセント程度高い水準にある。

（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年５月末TTS相場。

図２　生乳取引価格の推移



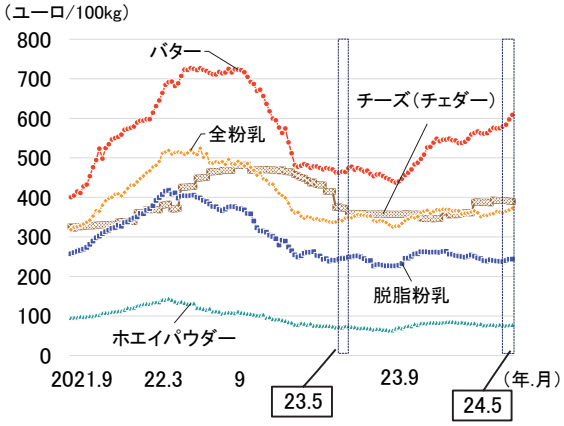
資料：欧州委員会「Milk market observatory」
注１：直近月は推定値。
注２：データが未公表のルクセンブルグを除く。

24年５月のバター価格、上昇基調の中で前年同期比28.5％高

欧州委員会によると、2024年５月26日の週の乳製品価格（EU27カ国の平均）は、バターが100キログラム当たり609ユーロ（10万4310円、前年同期比28.5％高）、全粉乳が同373ユーロ（６万3887円、同6.9％高）、チーズは同390ユーロ（６万6799円、同8.4％高）、ホエイパウダーが同78ユーロ（１万3360円、同4.8％高）といずれも前年同期を上回った（図３）。一方、脱脂粉乳は同244ユーロ（４万1792円、同1.7％安）と前年同期をわずかに下回った。

バター価格上昇の背景として、EU域内外の好調なチーズ需要によりチーズの生産量が増える中で、生乳のバター仕向け量の減少によるバター生産量の減少がみられる中、米国農務省農業マーケティング局（USDA/AMS）によると、イースターなど春の祝祭日や小売店の販促活動に加え、旬を迎えるアスパラガスのソースとしてバターの消費が増えることで、需給がひっ迫しているとみられる。現在のEU産バターの価格は、オセアニア産や上昇している米国産に比べてやや下回っているため、国際市場での価格競争力を維持しているとされる。今後、オセアニアからの供給が季節的に減少する時期に近づくにつれ、さらなる価格上昇の可能性も示唆されている。

図３　乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

（調査情報部　渡辺　淳一）

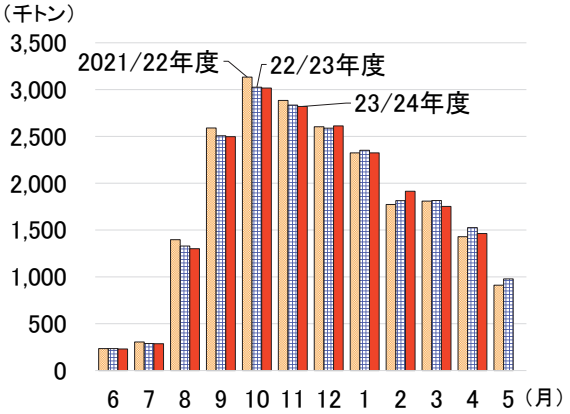
N　Z

GDT平均取引価格は上昇も、24/25年度の生産者支払乳価は慎重な設定

24年４月の生乳生産量、２カ月連続で前年同月を下回る

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2024年４月の生乳生産量は146万3000トン（前年同月比4.1％減）とやや減少し、２カ月連続で前年同月を下回った（図１）。この結果、23/24年度（６月～翌５月）４月までの累計でも、2021万5000トン（前年同期比0.5％減）とわずかに減少した。この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、シーズン終盤にかけて酪農地帯を中心に乾燥した気候が続き、放牧に適した牧草の生育不良により、一部の生産者が２～３週間早い乾乳を進めたことなどを挙げている。

図１　生乳生産量の推移



資料：DCANZ
注：年度は６月～翌５月。

24年４月の乳製品輸出量、主要４品目すべてが前年同月を下回る

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2024年４月の乳製品輸出量は、主要４品目すべてで前年同月を下回った（表、図２）。品目別に見ると、脱脂粉乳や全粉乳は最大の輸出先である中国向けが前年同月から４割弱減少したことから、それぞれ35.0％、15.8％減少した。また、バターおよびバターオイルは最大の輸出先の中国向けが増加したものの、主要輸出先の豪州やインドネシア向けが減少したことから16.9％減少した。チーズは最大の輸出先である中国向けをはじめ、豪州、日本、韓国向けがそれぞれ減少したことで13.7％減少した。

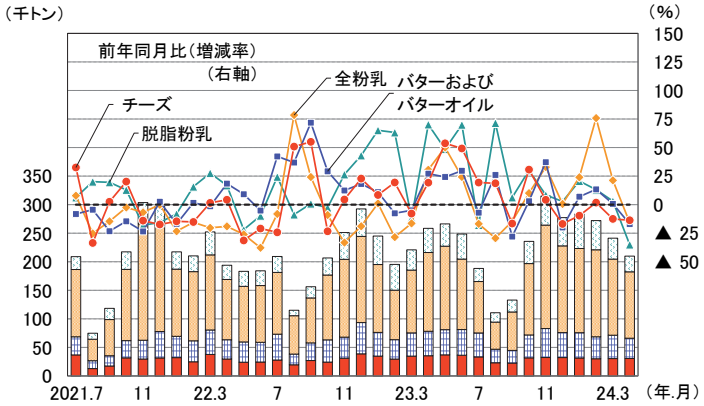
表　乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2023年４月	24年４月	前年同月比（増減率）	23/24年度（７月～翌４月）	前年同期比（増減率）
脱脂粉乳	42,304	27,502	▲ 35.0%	374,680	5.6%
全粉乳	137,925	116,198	▲ 15.8%	1,212,204	9.4%
バターおよびバターオイル	42,865	35,606	▲ 16.9%	382,144	▲ 0.6%
チーズ	35,328	30,489	▲ 13.7%	297,025	▲ 1.7%

資料：Stats NZ
注１：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。
注２：製品重量ベース。
注３：年度は７月～翌６月。

図２　乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



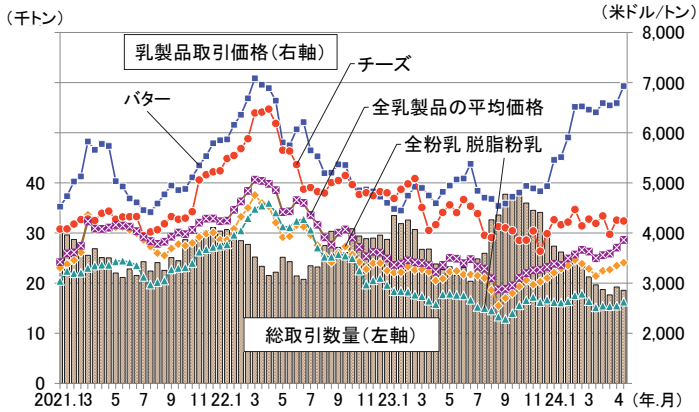
資料：Stats NZ
注：製品重量ベース。

24年５月下旬のGDT平均価格、主要３品目が前回開催を上回る

2024年５月21日開催のGDT（注１）平均取引価格は、チーズを除く主要３品目で前回開催時（同年５月７日）を上回った（図３）。この結果、全乳製品の平均取引価格は１トン当たり3861米ドル（60万9034円：１米ドル＝157. 74円（注２）、前回比4.1％高）とやや上昇した。このような中で、NZ乳業大手フォンテラ社は同年５月29日、23/24年度の生産者支払乳価を生乳の固形分（注３）１キログラム当たり平均7.8NZドル（764円：1NZドル＝97.96円（注２））に維持することを発表した。また、同日には24/25年度の当初乳価を同8.0NZドル（784円）にすると発表した。これについて同社のハレル最高経営責任者は、「中国の乳製品需要が回復していないことや世界市場の不確実性などのリスクを考慮し、慎重に当初乳価を設定した」とコメントした（注４）。

（注１）グローバルデイリートレード。月２回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年５月末TTS相場。
（注３）乳脂肪分および乳タンパク質。
（注４）海外情報「フォンテラ社、23/24年度生産者支払乳価の据え置きと24/25年度当初乳価を発表」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003825.html）をご参照ください。

図３　GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT

（調査情報部　工藤　理帆）

中　国

生乳生産量はさらに増加、乳製品輸入量は引き続き低水準

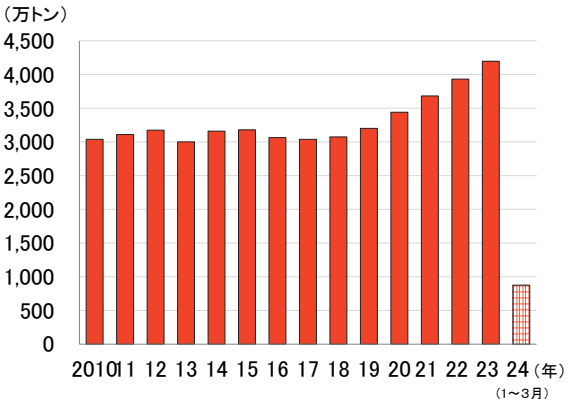
24年第１四半期の生乳生産量は引き続き増加

中国国家統計局によると、2024年第１四半期（１～３月）の生乳生産量は、前年同期比5.1%増の876万トンとなった（図１）。

24年の生乳等生産量(注１)について中国農業農村部は、４月に公表した「中国農業展望報告（2024－33)」（以下「展望報告」という）の中で、乳牛を100頭以上飼養する大規模農場の割合が増加し、飼養管理技術の向上と経営の安定化などがさらに進むことで、4405万トン（前年比2.6%増）と見込んでいる。一方で、米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は５月、同年の中国の生乳等生産量について、高泌乳牛の増加や飼養管理技術の向上などから4350万トン（うち生乳は4250万トン、同1.3%増）とするレポートを公表している。

（注１）牛由来の生乳のほか、ヤクやヤギなど由来の乳を含む生産量。展望報告では、生乳のみの生産量見込みは示されていない。

図１　生乳生産量の推移



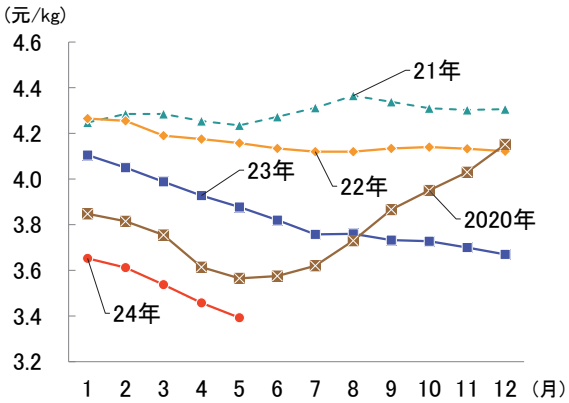
資料：中国国家統計局、中国乳業年鑑

24年５月の生乳価格は前年同月比12.5%安

中国農業農村部によると、2024年５月の生乳価格は１キログラム当たり3.39元（74.27円：１元＝21.91円(注２)、前年同月比12.5%安）と前年同月をかなり大きく下回った（図２）。

（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年５月末TTS相場。

図２　生乳価格の推移



資料：中国農業農村部
注：主要10省・自治区（全国の生乳生産量の８割以上を占める）の農家庭先価格の平均。

24年の生乳価格について展望報告では、従来は生乳生産量の増加による余剰生乳を粉乳に加工することで需給調整を図ってきたが、吸収余力がすでに限界を迎えて生乳の供給過剰となっていることから、前半は引き続き下落傾向で推移するとしている。その後、後半には上昇に転じるが、上昇余地は限定的とし、同3.50～3.70元(76.69～81.07円)の範囲で推移すると見込んでいる。

24年の乳製品輸入量、需給の緩和で引き続き低迷

2024年１～４月期の乳製品主要８品目の輸入量は、８品目中２品目（全粉乳およびチーズ）で前年同期をわずかに上回ったが、その他の６品目はいずれも下回った（表）。輸入量の減少要因について中国農業農村部は、24年５月に公表した「農産物需給動向分析月報（2024年４月）」の中で、中国国内の乳製品需要が引き続き低迷していることを挙げている。

24年の乳製品輸入量について展望報告では、中国政府による乳製品の消費促進のための啓発活動などにより、１人当たりの乳製品消費量の増加が見込まれる一方、生乳生産量の増加による生乳の供給過剰は続くことから、引き続き減少（生乳換算で前年比1.0%減）することを見込んでいる。

表　主な乳製品の品目別輸入量の推移

（単位：万トン）

	2020年	21年	22年	23年	24年（１～４月）	前年同期比（増減率）	【参考：輸入額】前年同期比（増減率）
全粉乳	64.4	84.9	70.1	43.1	18.1	2.9%	▲5.0%
脱脂粉乳	33.6	42.6	33.5	34.7	10.2	▲31.4%	▲42.8%
飲用乳	84.5	99.6	72.2	54.8	13.2	▲18.5%	▲19.0%
ヨーグルト	2.8	2.5	2.2	1.8	0.4	▲38.8%	▲22.4%
チーズ	12.9	17.6	14.5	17.8	5.7	3.9%	▲1.6%
バター	8.6	9.7	10.1	9.3	3.4	▲0.4%	0.5%
育児用調製粉乳	34.8	27.3	28.0	23.8	6.1	▲45.0%	▲37.9%
ホエイ	62.3	71.8	59.9	65.6	18.2	▲17.5%	▲27.8%

資料：「Grobal Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と0401.20、ヨーグルトは0403.10（2021年以前）と0403.20（22年以降）、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調整粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。なお、ヨーグルトは、22年１月１日のHS品目表の改訂により、市場実態に合わせてヨーグルトの範囲が拡大されたため、21年以前と22年以降のデータに連続性はない。

（調査情報部　平山　宗幸）

飼料穀物

世　界

主要国のトウモロコシ生産量は微減するも、期末在庫は高水準の見通し

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は、2024年５月10日、2024/25年度最初の世界のトウモロコシ需給予測値を公表した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億1993万トン（前年度比0.7%減）とわずかに減少が見込まれている。このうち、主要生産国･地域であるブラジル、EUおよび中国は、いずれも作付面積の増加により前年度からの生産増が見込まれている。一方、作付面積が減少する米国やアルゼンチンに加え、作付面積と単収が減少するウクライナでは、いずれも前年度からの生産減が見込まれている。

輸入量は､世界全体で１億8437万トン（同0.7%減）とわずかに減少が見込まれている。このうち、EUは生産量の増加により、1800万トン（同14.3%減）とかなり大きく減少が見込まれている。一方、世界最大のトウモロコシ輸入国である中国は、前年同の2300万トンとされた。

消費量は、世界全体で12億2075万トン（同0.4%増）とわずかに増加が見込まれている。用途別に見ると、飼料向けは増加が見込まれている一方、食品・工業向けなど非飼料向けは小幅の減少が見込まれている。

輸出量は､世界全体で１億9110万トン（同3.2%減）とやや減少が見込まれている。米国は5588万トン（同2.3%増）とわずかに増加するものの、アルゼンチン、ブラジルおよびウクライナなどその他主要輸出国は、いずれも減少が見込まれている。

この結果、期末在庫はブラジルとウクライナの減少を米国の増加が補い、３億1227万トン（同0.3%減）と前年度並みの高水準を維持すると見込まれている。

表　主要国のトウモロコシの需給見通し（2024年５月10日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

区　　分		2022/23年度	23/24年度（推計値）	24/25年度（５月予測）	24/25年度前年度比（増減率）
米国					
	期首在庫	34.98	34.55	51.36	48.7%
	生産量	346.74	389.69	377.46	▲ 3.1%
	輸入量	0.98	0.64	0.64	0.0%
	消費量	305.95	318.91	320.18	0.4%
	輸出量	42.20	54.61	55.88	2.3%
	期末在庫	34.55	51.36	53.39	4.0%
ブラジル					
	期首在庫	3.97	10.04	3.84	▲ 61.8%
	生産量	137.00	122.00	127.00	4.1%
	輸入量	1.33	1.30	1.50	15.4%
	消費量	78.00	79.50	80.50	1.3%
	輸出量	54.26	50.00	49.00	▲ 2.0%
	期末在庫	10.04	3.84	2.84	▲ 26.0%
アルゼンチン					
	期首在庫	4.75	1.32	1.54	16.7%
	生産量	36.00	53.00	51.00	▲ 3.8%
	輸入量	0.02	0.02	0.01	▲ 50.0%
	消費量	14.20	14.80	14.80	0.0%
	輸出量	25.24	38.00	36.00	▲ 5.3%
	期末在庫	1.32	1.54	1.74	13.0%
ウクライナ					
	期首在庫	7.80	2.80	2.91	3.9%
	生産量	27.00	31.00	27.00	▲ 12.9%
	輸入量	0.02	0.02	0.02	0.0%
	消費量	4.90	4.90	4.45	▲ 9.2%
	輸出量	27.12	26.00	24.00	▲ 7.7%
	期末在庫	2.80	2.91	1.48	▲ 49.1%
EU					
	期首在庫	11.51	7.61	7.51	▲ 1.3%
	生産量	52.29	61.00	64.80	6.2%
	輸入量	23.21	21.00	18.00	▲ 14.3%
	消費量	75.20	77.90	78.60	0.9%
	輸出量	4.20	4.20	4.20	0.0%
	期末在庫	7.61	7.51	7.51	0.0%
中国					
	期首在庫	209.14	206.04	210.86	2.3%
	生産量	277.20	288.84	292.00	1.1%
	輸入量	18.71	23.00	23.00	0.0%
	消費量	299.00	307.00	313.00	2.0%
	輸出量	0.01	0.02	0.02	0.0%
	期末在庫	206.04	210.86	212.84	0.9%
世界計					
	期首在庫	313.59	300.91	313.08	4.0%
	生産量	1157.88	1228.09	1219.93	▲ 0.7%
	輸入量	173.46	185.75	184.37	▲ 0.7%
	消費量	1170.56	1215.92	1220.75	0.4%
	輸出量	180.36	197.38	191.10	▲ 3.2%
	期末在庫	300.91	313.08	312.27	▲ 0.3%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注：各国の穀物年度　世界、米国：９月～翌８月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌９月/アルゼンチン、ブラジル：３月～翌２月。

（調査情報部　峯岸　啓之）

24/25年度の大豆需給予測、生産量、輸出量ともに増加見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2024年５月10日、2024/25年度最初の世界の大豆需給予測値を公表した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は４億2226万トン（前年度比6.4％増）とかなりの増加が見込まれている。このうち、最大の生産国であるブラジルは１億6900万トン（同9.7％増）と、前年度に続き過去最大の生産量が見込まれている。また、これに次ぐ米国は作付面積や単収の増加見込から１億2111万トン（同6.9％増）、アルゼンチンは5100万トン（同2.0％増）とされた。さらに中国も、大豆の生産振興策を背景に前年度並みの2070万トン（同0.7％減）とされた。

輸入量は、世界全体で１億7640万トン（同3.6％増）とやや増加が見込まれている。このうち、最大の輸入国である中国は、前年度をやや上回る１億900万トン（同3.8％増）とされた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で３億4587万トン（同4.8％増）とやや増加が見込まれている。このうち、最大の消費国である中国は、搾油向け需要の回復などから前年度をやや上回る１億300万トン（同4.0％増）とされた。

輸出量は、世界全体で１億8020万トン（同4.5％増）とやや増加が見込まれている。このうち、最大の輸出国であるブラジルは、生産量の増加を受けて１億500万トン（同2.9％増）、これに次ぐ米国も4967万トン（同7.3％増）とされた。

この結果、期末在庫は１億2850万トン（同15.0％増）とかなり大きな増加が見込まれている。

今回の予測では、ブラジルや米国、アルゼンチンの大豆生産が増加する中で、輸出量や消費量も増加とされたが、市場関係者の当初予想を上回る期末在庫であることから、USDAは米国の生産者販売価格を１ブッシェル当たり11.20米ドル（1767円、１キログラム当たり70円[注１]：１米ドル＝157.74円[注２]、前年度比10.8％安）と見込んでいる。

また、今回の予測は、天候条件が通常または好天と想定されているため、今後の気象状況の変化による生産量や輸出量への影響に注視が必要とみられる。

（注１）１ブッシェルを約25.401キログラム、１エーカーを約0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。
（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年５月末TTS相場。

表　主要国の大豆需給見通し（2024年５月10日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国　　名		2022/23年度	23/24年度（推計値）	24/25年度（５月予測）	24/25年度前年度比（増減率）
米国					
	期首在庫	7.47	7.19	9.26	28.8%
	生産量	116.22	113.34	121.11	6.9%
	輸入量	0.67	0.68	0.41	▲ 39.7%
	消費量	60.20	62.60	66.00	5.4%
	輸出量	54.21	46.27	49.67	7.3%
	期末在庫	7.19	9.26	12.11	30.8%
ブラジル					
	期首在庫	27.38	36.82	31.42	▲ 14.7%
	生産量	162.00	154.00	169.00	9.7%
	輸入量	0.15	0.45	0.15	▲ 66.7%
	消費量	53.41	54.00	54.00	0.0%
	輸出量	95.50	102.00	105.00	2.9%
	期末在庫	36.82	31.42	37.47	19.3%
アルゼンチン					
	期首在庫	23.69	17.00	26.15	53.8%
	生産量	25.00	50.00	51.00	2.0%
	輸入量	9.06	6.50	5.50	▲ 15.4%
	消費量	30.32	35.50	40.00	12.7%
	輸出量	4.19	4.60	5.50	19.6%
	期末在庫	17.00	26.15	29.55	13.0%
中国					
	期首在庫	25.15	32.34	36.38	12.5%
	生産量	20.28	20.84	20.70	▲ 0.7%
	輸入量	104.50	105.00	109.00	3.8%
	消費量	96.00	99.00	103.00	4.0%
	輸出量	0.09	0.10	0.10	0.0%
	期末在庫	32.34	36.38	39.18	7.7%
世界計					
	期首在庫	92.56	100.53	111.78	11.2%
	生産量	378.20	396.95	422.26	6.4%
	輸入量	167.86	170.30	176.40	3.6%
	消費量	315.34	329.97	345.87	4.8%
	輸出量	172.05	172.47	180.20	4.5%
	期末在庫	100.53	111.78	128.50	15.0%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注１：各国の穀物年度　米国：９月～翌８月／ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌９月。
注２：消費量は搾油仕向量である。

（調査情報部　横田　徹）

米　国

米国の生産量はやや減少、生産者価格は前年度に引き続き下落

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2024年５月10日、2024/25年度（９月～翌８月）最初の米国のトウモロコシ需給見通しを公表した（表）。

生産量は、１エーカー当たりの単収は増加するものの、作付面積の減少により、148億6000万ブッシェル（３億7746万トン(注1)、前年度比3.1%減）とやや減少が見込まれている。

国内消費量は、126億500万ブッシェル（３億2018万トン、同0.4%増）とわずかに増加が見込まれている。このうち、エタノール向けは、ガソリン消費量がほぼ横ばいと予想されることから前年並みとした一方、飼料など向けは、供給量の増加などからとわずかな増加が見込まれている。

輸出量は、22億ブッシェル（5588万トン、同2.3%増）とわずかな増加が見込まれている。

この結果、期末在庫は期首在庫と総供給量の増加に伴い、21億200万ブッシェル（5339万トン、同4.0%増）とやや増加し、前年度に引き続き高水準が見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、14.2%（同0.4ポイント増）とわずかに前年度を上回る水準が見込まれている。

生産者平均販売価格は、１ブッシェル当たり4.40米ドル（694円。１キログラム当たり27.3円：１米ドル＝157.74円(注2)、同5.4%安）とやや下落が見込まれている。

（注１）１ブッシェルを約25.401キログラム、１エーカーを約0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。
（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年５月末TTS相場。

表　米国のトウモロコシの需給見通し（2024年５月10日米国農務省公表）

区　分	－単位－	2022/23年度	23/24年度（推計値）	24/25年度（５月予測）	24/25年度 参考（換算値）	前年度比（増減率）
作付面積	（百万エーカー）	88.2	94.6	90.0	36.42（百万ヘクタール）	▲4.9%
収穫面積	（百万エーカー）	78.7	86.5	82.1	33.23（百万ヘクタール）	▲5.1%
単収	（ブッシェル/エーカー）	173.4	177.3	181.0	11.36（トン/ヘクタール）	2.1%
期首在庫	（百万ブッシェル）	1,377	1,360	2,022	51.36（百万トン）	48.7%
生産量	（百万ブッシェル）	13,651	15,342	14,860	377.46（百万トン）	▲3.1%
輸入量	（百万ブッシェル）	39	25	25	0.64（百万トン）	0.0%
総供給量	（百万ブッシェル）	15,066	16,727	16,907	429.45（百万トン）	1.1%
国内消費量	（百万ブッシェル）	12,045	12,555	12,605	320.18（百万トン）	0.4%
飼料など向け	（百万ブッシェル）	5,486	5,700	5,750	146.06（百万トン）	0.9%
食品・種子・その他工業向け	（百万ブッシェル）	6,558	6,855	6,855	174.12（百万トン）	0.0%
うちエタノール向け	（百万ブッシェル）	5,176	5,450	5,450	138.44（百万トン）	0.0%
輸出量	（百万ブッシェル）	1,661	2,150	2,200	55.88（百万トン）	2.3%
総消費量	（百万ブッシェル）	13,706	14,705	14,805	376.06（百万トン）	0.7%
期末在庫	（百万ブッシェル）	1,360	2,022	2,102	53.39（百万トン）	4.0%
期末在庫率	（%）	9.9	13.8	14.2		0.4ポイント増
生産者平均販売価格	（米ドル/ブッシェル）	6.54	4.65	4.40	27.3（円/kg）	▲5.4%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注１：年度は各年９月～翌８月。
注２：１ブッシェルは約25.401キログラム、１エーカーは約0.4047ヘクタール。
注３：換算値は端数処理の関係で表と一致しない場合がある。

（調査情報部　峯岸　啓之）

中　国

24/25年度のトウモロコシおよび大豆の需給見通し

24/25年度のトウモロコシ生産量、前年度に続き過去最高見込み

中国農業農村部は５月10日、最新の「中国の農産物需給状況分析」を公表した。このうち、2024/25年度（10月～翌９月）最初のトウモロコシの需給見通しは次の通りである（表１）。

生産量は、作付面積および単収の増加により、過去最高となる２億9701万トン（前年度比2.8%増）と見込まれている。

輸入量は、1300万トン（同33.3%減）と大幅な減少が見込まれている。トウモロコシの収益性が高いことで生産量が増加する中、輸入量は減少傾向で推移しており、記録的な輸入となった20/21年度（2956万トン）から５割を超える減少となる。

消費量は、２億9964万トン（同1.6%増）とわずかな増加が見込まれており、引き続き消費の６割以上を占める飼料向けがけん引している。

この結果、同年度のトウモロコシの過不足は1036万トン（同22.3%減）のプラスが見込まれている。

また、同年度の国内のトウモロコシ生産地平均卸売価格については、１トン当たり2500～2700元（５万4775円～５万9157円：１元＝21.91円(注)）と、前年度の同2400～2600元（５万2584円～５万6966円）を上回る水準での推移が見込まれている。

表１　中国のトウモロコシ需給見通し（2024年５月10日中国農業農村部公表）

区　分	ー単位ー	2022/23年度	23/24年度	24/25年度	
			(推計)	(５月予測)	前年度比(増減率)
作付面積	(千ヘクタール)	43,070	44,219	44,886	1.5%
収穫面積	(千ヘクタール)	43,070	44,219	44,886	1.5%
単収	(キログラム/ヘクタール)	6,436	6,532	6,617	1.3%
生産量	(万トン)	27,720	28,884	29,701	2.8%
輸入量	(万トン)	1,871	1,950	1,300	▲ 33.3%
総供給量（生産量＋輸入量）	(万トン)	29,591	30,834	31,001	0.5%
消費量	(万トン)	29,051	29,500	29,964	1.6%
食用向け	(万トン)	980	991	1,000	0.9%
飼料向け	(万トン)	18,800	19,100	19,350	1.3%
工業向け	(万トン)	8,100	8,238	8,450	2.6%
種子向け	(万トン)	191	193	196	1.6%
その他向け	(万トン)	980	978	968	▲ 1.0%
輸出量	(万トン)	1	1	1	ー
総消費量（消費量＋輸出量）	(万トン)	29,052	29,501	29,965	1.6%
差引数量（総供給量ー総消費量）	(万トン)	539	1,333	1,036	▲ 22.3%

資料：中国農業農村部
注：年度は10月～翌９月。

24/25年度の大豆生産量、輸入量共にわずかな減少

2024/25年度最初の大豆の需給見通しは次の通りである（表２）。

生産量は、作付面積が減少も単収の増加により2054万トン（前年度比1.4％減）と見込まれている。

輸入量は、9460万トン（同1.6％減）とわずかな減少が見込まれている。中国政府による国産の大豆生産振興政策などから輸入量は減少傾向で推移しており、記録的な輸入となった20/21年度（9978万トン）から５％強の減少となる。

消費量は、１億1456万トン（同0.6％減）とわずかな減少が見込まれており、引き続き搾油向けが消費の８割強を占めている。

この結果、同年度の大豆の過不足は40万トン（同74.2％減）のプラスが見込まれている。

また、同年度の国内の大豆平均卸売価格については、１トン当たり5400～5600元（11万8314円～12万2696円）と、前年度に比べ同100元程度の下落であったが、引き続き高い水準での推移が見込まれている。

USDA予測を下回るトウモロコシと大豆の輸入量、今後の動向が注目

米国農務省（USDA）が５月10日に公表した、2024/25年度最初の世界の穀物需給予測値との比較では、同年度の中国のトウモロコシおよび大豆の輸入量はいずれもUSDAの予測値（トウモロコシ2300万トン、大豆１億900万トン）を下回っている。このため、国際相場に影響する今後の中国の輸入動向が注目されている。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年５月末TTS相場。

表２　中国の大豆需給見通し（2024年５月10日中国農業農村部公表）

区　分	ー単位ー	2022/23年度	23/24年度	24/25年度	
			（推計）	（５月予測）	前年度比（増減率）
作付面積	（千ヘクタール）	10,243	10,470	10,163	▲ 2.9%
収穫面積	（千ヘクタール）	10,243	10,470	10,163	▲ 2.9%
単収	（キログラム/ヘクタール）	1,980	1,991	2,021	1.5%
生産量	（万トン）	2,028	2,084	2,054	▲ 1.4%
輸入量	（万トン）	9,750	9,610	9,460	▲ 1.6%
総供給量（生産量＋輸入量）	（万トン）	11,778	11,694	11,514	▲ 1.5%
消費量	（万トン）	11,415	11,524	11,456	▲ 0.6%
搾油向け	（万トン）	9,593	9,580	9,490	▲ 0.9%
食用向け	（万トン）	1,432	1,535	1,560	1.6%
種子向け	（万トン）	90	89	88	▲ 1.1%
その他向け	（万トン）	300	320	318	▲ 0.6%
輸出量	（万トン）	9	15	18	20.0%
総消費量（消費量＋輸出量）	（万トン）	11,424	11,539	11,474	▲ 0.6%
差引数量（総供給量－総消費量）	（万トン）	354	155	40	▲ 74.2%

資料：中国農業農村部
注：年度は10月～翌９月。

（調査情報部　横田　徹）